

東日本大震災・信越地震 支援ニュース①

長野医療生活協同組合 企画・教育部ニュースNo.36

発行：2011年4月4日 新津みさ子



第7陣：医療支援、無事帰還!

◎3月26日(土)～30日(水) 小島英吾医師より

～震災支援に赴いて～

地震発生後2週間の被災地に行ってきました。直接津被害を受けた地域は、何もかも破壊されつくしており、多くの命が一瞬にして奪われた死の街としか表現できない惨状でした。幸いにして命を取り留めた多くの人々も、窮屈な避難所で、遠縁の親類の家で、避難指示の出ている傾いた自宅で、ガスや水道もままならない中、身をかかめてひっそりと助けを待っております。

現地で山積みになった支援物資や心温めるメッセージボード、忙しく行き交う支援車両の群を目の当たりにし、民医連も、日赤も、済生会も、自衛隊も、消防隊も、警察も、日本中の人々が本気で被災地に心を寄せ、被災者をいたわり、復興を祈っていることが突き刺さるように伝わってきて、私もじっとしてられないほど感激しました。

今後は、どのような支えが必要とされているのか、支援者の善意をどう届けるべきなのか、緊急の救命救急から生活支援への移行期にあたり、冷静にそして早急に検討していかなくてはなりません。原発の問題も含めまだまだ予断は許しませんが、優しく強靱な日本人達の心意気をみるにつけ、復興は必ず成し遂げられると確信しました。



第9陣：復興支援 ～4/6迄 宮城県松島町 松島海岸診療所へ

◎4月2日(土) 8:30出発

今回の派遣は、職員と利用者さんが津波の被害にあい、尊いのちを奪われた宮城県松島町にある松島海岸診療所に、酒井勤さん(外来医事課)を団長に、柳川友浩さん(リハ科)、新井めぐみさん(訪問ながの)、そして県連事務局の黒沢信枝さん(上伊那出身)の4名が参加。震災発生から3週間がたち、徐々にではありますがライフラインも復旧はじめてきましたが、被災地や被災された方がたは、困難な生活を余儀なくされています。

現地での活動内容は、①松島町、東松島市の津波被災地(生協組合員+α)のお宅を訪問すること、②いわゆる直接的な被害がない方も含む全組合員訪問(約6500、うち被災者は1500～2000?)です。①はほぼ一巡しつつ、今後の活動の中心は②になっていきます。地域の理事たちが共に活動します。診療所などの被災状況と事業再建の現状をつたえ、また健康・生活相談活動を行うこととなります。



**3/19 労組青年部が緊急!! 長野駅前 支援行動実施
組合員 17名参加 義援金102,379円集まりました!!**

★義捐金集約 (4/4現在) 1,681,760円 民医連へ1,016,032円送金済!

★義捐金の遣いみち

民医連は被災した民医連事業所を通じて、医薬品、救援物資などの形で被災者の利益に結びつく形態で有効活用します。(3.23 全日本民医連) また、義捐金の一部は、被災した栄村に寄付しました。